

インスブルックの饗宴（1765年）

金の食器が並ぶ女帝マリア=テレジアの夫君神聖ローマ帝国皇帝フランツ一世の食卓
ナポレオン戦争の際には、神聖ローマ帝国皇帝フランツ二世（1768-1835）によって
この席で使われたハプスブルク家の金の食器が溶かされ戦費となった。



食卓の喜び

第2回

AUGENSCHMAUS UND TAFELFREUDEN (目のご馳走と食卓の喜び) より

著者 Dr. Ingrid Haslinger

訳 山下満智子 (大阪ガス(株)エネルギー・文化研究所)、宇野佳子



● Ingrid Haslinger
(イングリッド・ハスリンガー)
ウィーンに生まれる
ハプスブルク家宮廷の儀式や
テーブルマナー、銀器食器類
を研究。1987年『帝国のテー
ブル文化』、1998年『シー
の食卓』、2001年原著を執筆。

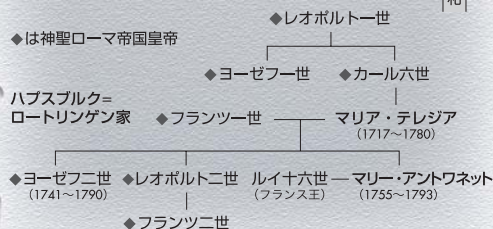
● 宇野佳子
筑波大学大学院修士
課程地域研究研究科
ヨーロッパ研究修了。
専門分野は言語文化。

ハプスブルク家関連参考図版

ハプスブルク家関係略年表

- 1096 第1回十字軍の出發
- 1273 ハプスブルク家のルドルフが神聖ローマ帝国皇帝に選ばれ大空位時代終わる
- 1291 十字軍終結
- 1338 英仏の百年戦争はじまる
- 1438 アルブレヒト二世が神聖ローマ皇帝となる(以後はハプスブルク家が世襲)
- 1453 ビザンツ帝国滅亡
- 1492 コロンブスがアメリカ西インド諸島到達
- 1516 スペイン王カルロス一世(カール五世)即位(スペイン=ハプスブルク家始まる ~1700)
- 1529 オスマン帝国による第一次ウィーン包囲
- 1541 カルビンが宗教改革を開始
- 1588 イギリスがスペインの無敵艦隊を撃滅
- 1618 ヨーロッパで三十年戦争勃発(~1648)
- 1683 オスマン帝国による第二次ウィーン包囲
- 1740 マリア・テレジア、ロートリンゲン家のフランツと結婚、オーストリア継承戦争勃発
- 1776 アメリカ独立宣言
- 1789 フランス革命起こる(1793 マリー=アントワネット処刑される)
- 1804 ナポレオン、フランス皇帝となる
- 1806 ナポレオン「ライン同盟」結成、プロイセン撃破
フランツ二世、神聖ローマ皇帝位を返上
- 1810 ナポレオン、ハプスブルク家のマリー・ルイズと結婚
- 1813 ライプツィヒの戦いでナポレオン敗退
- 1814 ウィーン会議(「会議は踊る」)
- 1848 三月革命、フェルディナント皇帝退位し、
フランツ・ヨーゼフが即位
- 1852 ルイ=ナポレオン、フランス第二帝政
- 1867 オーストリア=ハンガリー二重帝国成立
- 1871 ドイツ帝国成立
- 1898 エリザベト皇妃、スイスで暗殺される
- 1914 皇太子フェルディナント夫妻、サラエボで暗殺される、第一次世界大戦勃発
- 1916 フランツ・ヨーゼフ皇帝死去
- 1917 ロシア革命
- 1918 第一次世界大戦終結
オーストリア=ハンガリー二重帝国解体

〔日本の時代区分〕
平安 鎌倉 室町 安土桃山 江戸 明治 大正 昭和



■18世紀はじめのヨーロッパ



ロココの食卓 (1750年)

— 女帝マリア=テレジアと一族を迎えた — 壮麗なもてなし

1740年のマリア・テレジア (1717-1780) とフランツ=ヨーゼフ・フォン・ロートリンゲン公 (1708-1765) のご成婚以来、ウィーン宮廷や貴族の館において、フランスの料理や食卓文化の影響は、ゆるぎないものとなっていた。

1750年、女帝マリア=テレジアと夫君の神聖ローマ帝国皇帝フランツ一世は、シュロスホーフ宮殿に滞在し、ヒルトブルクハウゼン公の壮麗なもてなしを受けた。そのもてなしの壮麗さを文献は、以下のように記録する。

「今を去る9月23日月曜日午後、もったいなくも両陛下におかれては、ご一族のカール大公殿下やマリア=アンナ大公女殿下、マリア=クリスティーナ大公女殿下とともに、ハンガリーの町ホリチから郵便馬車で、ここニーダーエーストライヒのシュロスホーフ宮殿にお着きになった。両陛下は、両陛下ならびにお連れの皆様、総勢32名の方々のために整えられた大広間の食卓にご着席になられた。両陛下の食卓は申すまでもなく、その他に整えられた17の食卓にも実にさまざまな国のワインがあたかも湧き出る泉のように振舞われた。(中略) 両陛下や同じ食卓にご着席になられた方々は、『とても珍しい砂糖細工が飾られていた。大層気持ちのよいもてなしであった。大層な人数の給仕にもかかわらず、すべて秩序ただしく円滑に進められ何一つとして欠けているものがなく、すべてにおいて満ち足りていた。大いなる至福と満足の時間であった。眠気をもよおすようなことは宴がはてた帰りにさえなかった』と口々に証言なさったのである。」

当時の食卓には、しばしば神話をテーマにした砂糖細工や装飾的な観賞用の料理が飾られた。それを作るために、莫大な費用がかけられたのである。

— デザート用食器の登場 —

18世紀はまた、食卓文化の上で磁器が特にデザート用の食器として使用されるようになった時代でもある。18世紀前半には、マイセン (1710年)、ウィーン (1717年)、セーブル (1737年) といったヨーロッパのもっとも重要な磁器工房が創設された。これらの工房は、初期の試行錯誤の時期を経て、ヨーロッパ宮廷や貴族に華麗なデザート用食器や豪華なセンターピースを納めるようになった。デザート用食器には、皿やコンポート用の鉢、果物用の鉢の他に、アイスクリームクー

インスブルックの饗宴
銀の食器が並ぶ貴族の食卓



女帝マリア=テレジアの金のカトラリー



ラー、グラスやボトルを冷やすためのクーラー、アスピックゼリー用の鉢などがあった。センターピースは、燭台や鏡面付きの飾り皿、食卓デコレーション用のフィギュア等から成り、砂糖細工や装飾的な観賞用の料理がなくても鏡の上にいるような場面を演出することができた。



ウィーン磁器工房が製作した磁器製のフィギュア

ハプスブルク家所有のセーブル工房製の磁器類には、オーストリア継承戦争 (1740-1748) の後にフランスのルイ十五世から女帝マリア=テレジアへの外交的な意味を持つ贈り物や、ルイ十六世に嫁いだマリー=アントワネット (1755-1793) から兄のヨーゼフ二世 (1741-1790) に贈られたものなどがある。これらの贈り物は、デザート用食器やフィギュアなど食卓デコレーション用食器の他、花瓶やポプリなど多様な磁器から構成されていた。



フランス王ルイ十五世から女帝マリア=テレジアに贈られた緑のリボン柄のセーブル食器